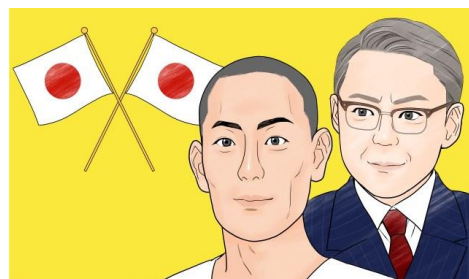




気になった番組から

NHK 大河ドラマ『いだてん～東京オリムピック噺～』は、6月23日に放送された第24話で、中村勘九郎演じる金栗四三（かなくり・しそう）を主人公にした前半戦第1部が終了。オリンピックをめぐる明治・大正・昭和を駆け抜けるドラマは、7月から主人公は阿部サダヲ演じる田畑政治にまつわる後半戦に突入しました。田畑の本職は新聞記者だが、戦前の日本の水泳を世界レベルに引き上げ、戦後の東京オリンピック実現に尽力したという知る人ぞ知る人物です。物語は人見絹枝・前畑秀子などの日本五輪史には不可欠の女性選手たちの活躍、田畑率いる日本水泳チームの破竹の快進撃、戦争に翻弄され幻となった1940年の東京オリンピック、そして、1964年に実現する東京オリンピックへと続くのだそうです。（私などの期待に反して、視聴率は今一のようなのですが）登場人物それぞれのキャラクターや人間関係などのエピソードがふんだんに織り込まれ、私にとって昨年の西郷どんに負けず劣らず興味は尽きません！
（人見絹江：日本人女性初の五輪メダリスト。100m、200m、走幅跳の元世界記録保持者。前畑秀子：ベルリン五輪で日本人女性として初めての金メダルを獲得。）



さて、毎年（8月15日）終戦の日の前後にマスコミは戦争関係の報道を行うのが通例ですが、先頃NHKによる空襲に関するドキュメンタリー番組がありました。BS1で放送された「なぜ日本は焼き尽くされたのか」であり、米国に存在する資料を発掘して制作されたものでした。日本への空襲は、実に66都市へ2千回にも達し、犠牲者の数は45万9564人と極めて詳しい数字を示しながら、当時の空襲を展開した軍幹部の証言テープを挟みながら、無差別爆撃を行った米国側の背景を明らかにしていました。

B29による日本への空襲は1944年秋から開始されたが、なかなか効果が上がらず、指揮官は解任された。代わった指揮官のカーチス・ルメイ（06～90年）は、夜間低空での焼夷（しょうい）弾による無差別爆撃に切り替えた。その最初が45年3月10日の東京大空襲であったのです。ルメイが無差別爆撃をやっても空襲の飛躍的效果を求めたのは、当時は陸軍に属していた航空部隊を独立した空軍にしたいーという悲願があったからだという。（結果、戦後の47年に「米国空軍」が創立されている）太平洋戦争の終末期に想定された「本土決戦」では、圧倒的優位の米軍でも相当数の死傷者は覚悟せざるを得ない状況であったが、先行してB29で広範囲に無差別爆撃を敢行すれば、上陸作戦での被害を少なくできるし、それ以上に航空部隊の力の誇示と「空軍の創設」の悲願達成を兼ねたものであったといわれる。日本の戦争被害において、沖縄戦や2つの原爆投下と比較してインパクトが薄れがちになっていますが、日本全土で広く展開された空襲の問題は、畢竟（ひっきょう）米国の軍政上の組織問題が大きく絡んでいたということでした！

